

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 の結果について



平成30年11月  
泉南市教育委員会

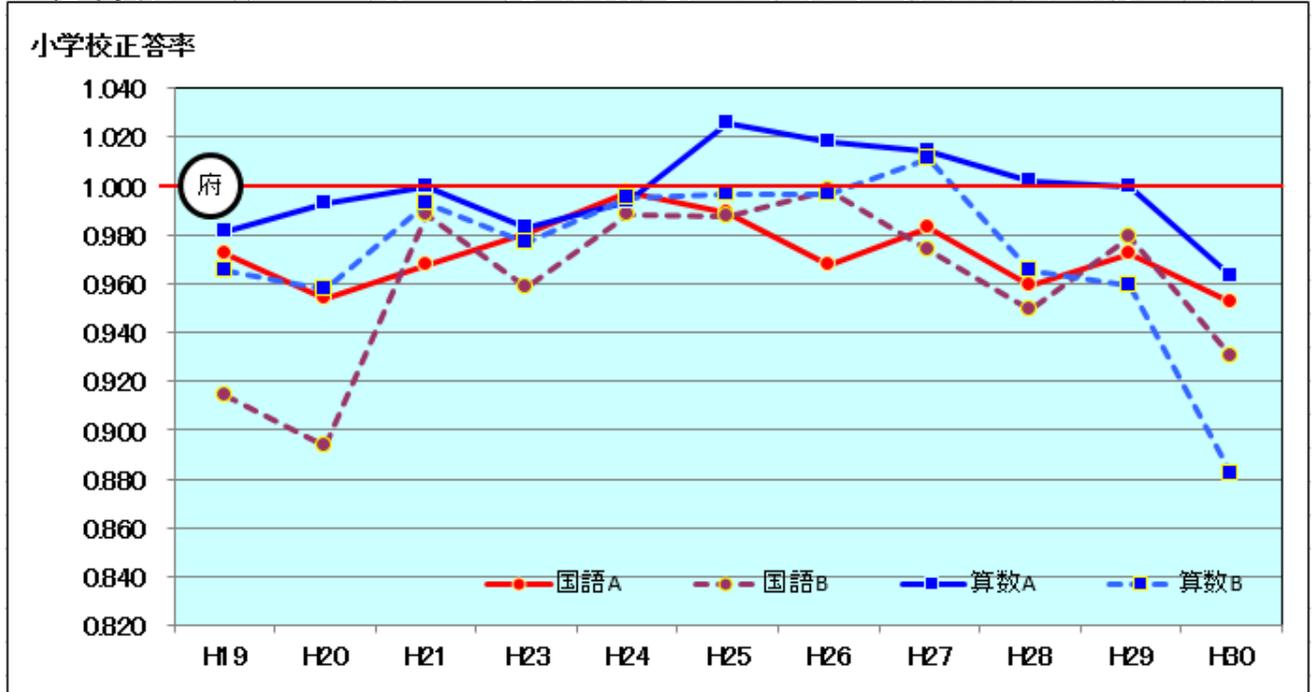
# 小学校の結果の概要

1. 経年変化の様子 対象学年は第 6 学年 平成 22 年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査						全国学力調査									
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	77.2	53.0	59.8	42.0	66.1	48.8	86.4	62.2	72.9	64.7	60.5	47.3	68.4	52.5	66.5	61.1	68.4	52.6	70.0	53.3	65.0	48.8
対府比	0.972	0.914	0.954	0.894	0.968	0.988	0.981	0.958	0.997	0.988	0.989	0.987	0.967	0.998	0.983	0.974	0.959	0.949	0.972	0.979	0.952	0.930
対全国比	0.945	0.855	0.914	0.832	0.946	0.966					0.965	0.957	0.938	0.946	0.950	0.934	0.938	0.910	0.938	0.923	0.918	0.887
大阪府	79.4	58.0	62.7	47.0	68.3	49.4	88.1	64.9	73.1	65.5	61.2	47.9	70.7	52.6	67.6	62.7	71.3	55.4	72.0	54.4	68.3	52.5
全国	81.7	62.0	65.4	50.5	69.9	50.5	-	-	-	-	62.7	49.4	72.9	55.5	70	65.4	72.9	57.8	74.6	57.7	70.8	55.0

算数	全国学力調査						大阪府学力調査						全国学力調査									
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	79.0	58.6	70.7	47.8	78.4	53.4	62.3	50.0	63.2	42.7	79.1	57.1	78.7	56.1	75.9	44.6	77.1	44.2	78.0	42.7	60.7	45.0
対府比	0.981	0.965	0.993	0.958	1.000	0.993	0.983	0.977	0.994	0.995	1.026	0.997	1.018	0.996	1.014	1.011	1.002	0.965	1.000	0.959	0.963	0.882
対全国比	0.962	0.921	0.979	0.926	0.996	0.974					1.025	0.978	1.008	0.964	1.009	0.991	0.993	0.936	0.992	0.922	0.956	0.873
大阪府	80.5	60.7	71.2	49.9	78.4	53.8	63.4	51.2	63.6	42.9	77.1	57.3	77.3	56.3	74.8	44.1	76.9	45.8	78.0	44.5	63.0	51.0
全国	82.1	63.6	72.2	51.6	78.7	54.8	-	-	-	-	77.2	58.4	78.1	58.2	75.2	45	77.6	47.2	78.6	46.3	63.5	51.5

2. 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 小学校では、昨年度同様2教科とも全国平均を下回った。また、2教科とも、ABとも本市の対前年度を下回った。また算数ABは3年連続全国平均を下回り、活用力の問われるB問題では全国との差が大きく開いた。

3. 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ( )内は全国との差

国語 A	成果 【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する設問の正答率71.9% (-2.0) 課題 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使えるかの正答率53.3%(-11.7)
国語 B	成果 【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫としての適切なものを選択する設問の正答率67.4% (-2.0) 課題 【伝記『湯川秀樹』の一部】を読んで、【ノートの一部】C最も心がゆかれた一文とその理由の文章の□に入る内容を書く設問の解答率43.1%(-9.2)
算数 A	成果 針金 0.2mの重さと針金 0.1mの重さを書く設問の正答率65.4% (+2.5) 課題 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを考える設問の正答率46.3% (-9.3)
算数 B	成果 1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための球を投げる時間を、表に整理して求める設問の正答率45.9% (-2.0) 課題 横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く設問の正答率15.6%(-10.5)

# 中学校の結果の概要

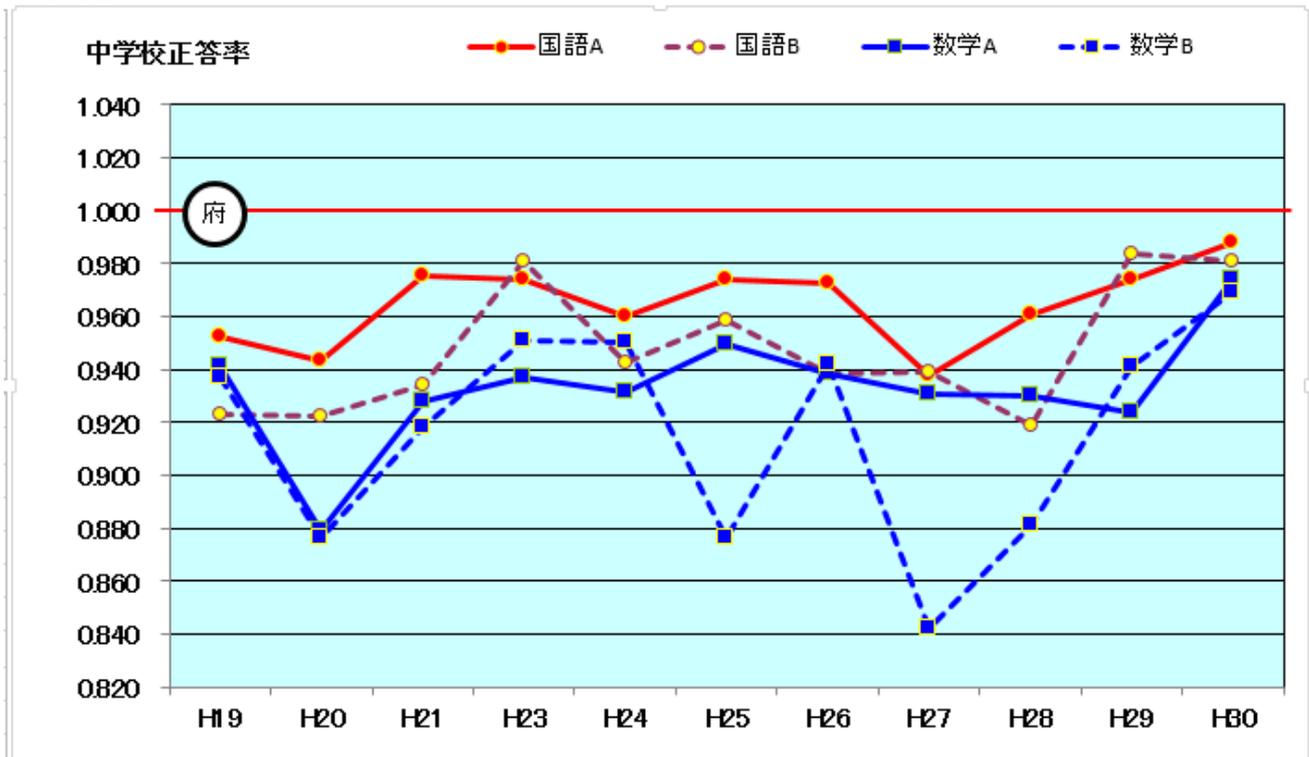
1. 経年変化の様子 対象学年は第3学年 平成22年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査				大阪府学力調査				全国学力調査													
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	75.4	60.0	66.5	50.9	70.9	63.8	67.2	52.2	62.5	44.6	71.4	60.4	74.9	44.3	69.8	60.9	70.7	58.2	73.4	67.7	73.8	57.8
対府比	0.952	0.923	0.943	0.922	0.975	0.934	0.974	0.981	0.960	0.943	0.974	0.959	0.973	0.939	0.938	0.939	0.961	0.919	0.974	0.984	0.988	0.981
対全国比	0.924	0.833	0.904	0.837	0.921	0.856					0.935	0.896	0.943	0.869	0.920	0.925	0.935	0.875	0.947	0.937	0.972	0.946
大阪府	79.2	65.0	70.5	55.2	72.7	68.3	69.0	53.2	65.1	47.3	73.3	63.0	77.0	47.2	74.4	64.8	73.5	63.3	75.3	68.8	74.7	58.9
全国	81.6	72.0	73.6	60.8	77.0	74.5	-	-	-	-	76.4	67.4	79.4	51.0	75.8	65.8	75.6	66.5	77.5	72.2	75.9	61.1

数学	全国学力調査				大阪府学力調査				全国学力調査													
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	65.3	51.8	53.2	39.6	55.6	48.2	58.2	36.8	61.0	38.4	58.6	34.0	61	53.6	59.9	34.9	57.4	38.0	58.8	43.3	63.6	44.3
対府比	0.941	0.937	0.879	0.876	0.928	0.918	0.937	0.951	0.931	0.950	0.950	0.876	0.938	0.942	0.931	0.842	0.930	0.881	0.924	0.941	0.974	0.969
対全国比	0.908	0.855	0.843	0.805	0.887	0.847					0.920	0.819	0.905	0.896	0.930	0.838	0.922	0.861	0.908	0.902	0.962	0.941
大阪府	69.4	55.3	60.5	45.2	59.9	52.5	62.1	38.7	65.5	40.4	61.7	38.8	65.0	56.9	64.3	41.4	61.7	43.1	63.6	46.0	65.3	45.7
全国	71.9	60.6	63.1	49.2	62.7	56.9	-	-	-	-	63.7	41.5	67.4	59.8	64.4	41.6	62.2	44.1	64.7	48.0	66.1	47.1

2. 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 中学校は、2教科とも大阪府・全国の平均を下回っている。国語A、数学ABで本市の前年度比を大きく上回ったが、国語Bについては、大阪府・全国とのポイントの差が開いた。

3. 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ( )内は全国との差

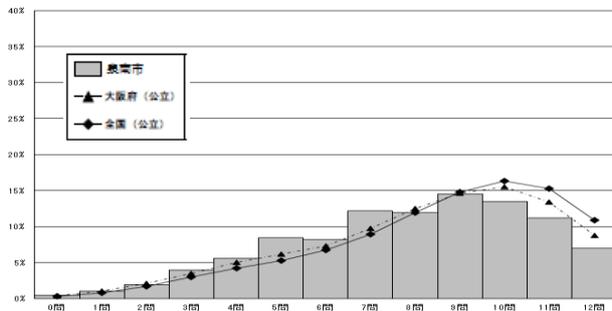
国語 A	成果	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問の正答率 68.4% (+5.4)
	課題	話合いの際のメモの取り方の説明として適切なものを選択する設問の正答率 63.3% (-9.1)
国語 B	成果	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する設問の正答率 67.7% (-0.5)
	課題	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する設問の正答率 45.5% (-9.1)
数学 A	成果	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ設問の正答率 64.9% (+1.8)
	課題	$2 \times (-5)^2$ を計算する設問の正答率 57.9% (-11.0)
数学 B	成果	A駅から道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する設問の正答率 12.9% (-0.3)
	課題	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める設問の正答率 37.7% (-6.2)

# 小学校 国語

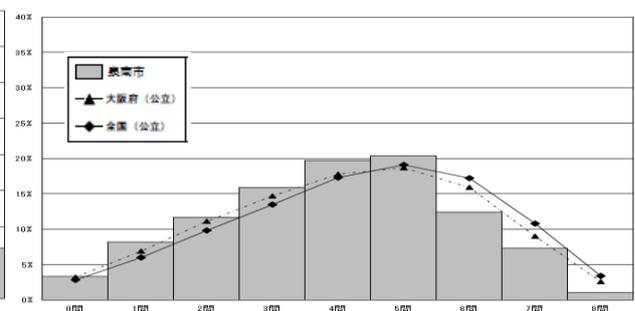
A 問題の平均正答率は 65.0%，B 問題の平均正答率は 48.8%で、A B問題ともに大阪府や全国を下回っていて、その差は大きくなっている。また、学力上位層が少なく、領域別では「書くこと」と「読むこと」に課題が見られる。

## 1. 正答数分布

<A 問題>



<B 問題>



○ AB 問題とも学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

## 2. 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A 問題 (全12問)				設問数	B 問題 (全8問)			
			平均正答率 (%)			対府比		平均正答率 (%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	87.4	90.8	90.1	0.970	3	59.7	64.6	62.2	0.960
	書くこと	1	67.0	73.8	71.6	0.936	5	39.3	45.6	42.5	0.925
	読むこと	2	71.2	74.0	72.5	0.982	2	44.3	50.8	47.8	0.927
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	60.8	67.0	63.8	0.953	0	-	-	-	-
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	26.2	33.2	29.7	-
	話す・聞く能力	1	87.4	90.8	90.1	0.970	3	59.7	64.6	62.2	0.960
	書く能力	1	67.0	73.8	71.6	0.936	5	39.3	45.6	42.5	0.925
	読む能力	2	71.2	74.0	72.5	0.982	2	44.3	50.8	47.8	0.927
	言語についての知識・理解・技能	8	60.8	67.0	63.8	0.953	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	11	68.9	73.9	71.8	0.960	5	63.1	67.6	65.6	0.962
	短答式	1	25.5	35.5	28.0	0.911	0	-	-	-	-
	記述式	0	-	-	-	-	3	26.2	33.2	29.7	0.882

○ A 問題では特に「書くこと」の領域で正答率が低かった。例えば、自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることに課題がみられる。B問題では、「書くこと」や「読むこと」の領域で正答率が低かった。例えば、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることや文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確しながら読むことに課題が見られた。

## 3. 成果と課題

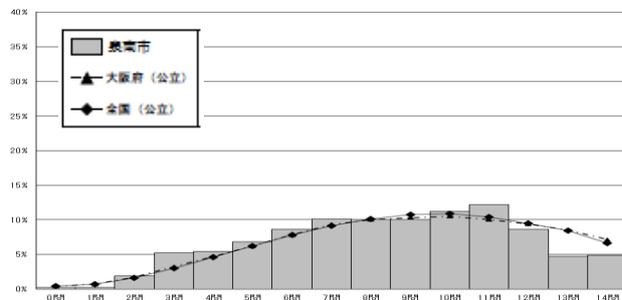
国語 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲漢字の書きに関しては、書かれている内容や文の意味を理解し、文の中で漢字を正しく使うことができることに課題が見られる。</li> <li>▲文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くことに課題がある。</li> </ul>
国語 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらに関係付けて理解したり表現したりすることに課題が見られる。</li> <li>▲目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。</li> </ul>

# 小学校 算数

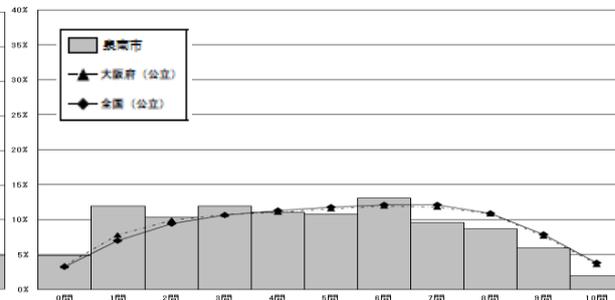
A 問題の平均正答率は 60.7%，B 問題の平均正答率は 45.0%で、A B 問題ともに大阪府や全国を下回っていて、その差は大きくなっている。また、学力上位層が少なく、領域全般で課題があり、特に「図形」に課題が大きい。

## 1. 正答数分布

<A 問題>



<B 問題>



○ AB 問題とも学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

## 2. 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A 問題(全14問)				設問数	B 問題(全10問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と計算	5	61.2	62.3	62.5	0.979	6	52.0	58.4	57.6	0.903
	量と測定	4	70.5	72.7	72.6	0.971	4	48.4	52.4	51.7	0.936
	図形	3	49.6	56.9	56.4	0.879	2	54.7	59.9	59.6	0.918
	数量関係	5	57.4	60.1	60.3	0.952	5	39.7	45.1	43.8	0.906
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な考え方	0	-	-	-	-	9	43.4	49.2	48.3	0.899
	数量や図形についての技能	5	59.0	63.0	61.8	0.955	0	-	-	-	-
	数量や図形についての知識・理解	9	61.3	63.8	64.2	0.955	1	63.5	71.7	71.8	0.884
問題形式	選択式	10	58.5	61.8	61.9	0.945	3	48.5	54.0	53.8	0.901
	短答式	4	65.4	67.8	67.1	0.975	2	59.8	66.6	64.9	0.921
	記述式	0	-	-	-	-	5	37.9	43.9	43.0	0.881

○ A 問題で、「数と計算」の領域の一部で成果があったが、「図形」の領域で正答率が低かった。例えば、直径が2倍になったとき、円周が何倍になるかという問題に課題が見られた。B 問題ではすべての領域で課題が見られる。特に、算数の問題場面から見いだした数量の関係を基に、論理的に、発展的に考察し、数学的に表現することに課題が見られた。

## 3. 成果と課題

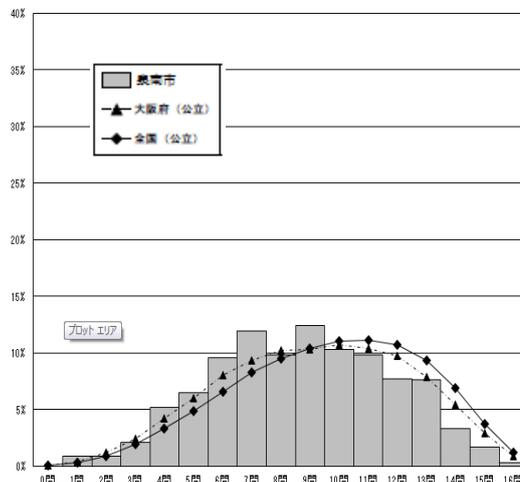
算数 A 問題	<p>○除法で表すことができる二つの数量の関係を理解しており、各校での日々の取り組みの成果が表れたと考えられる。</p> <p>▲円周率の意味や直径の長さや演習の長さの関係について理解しているかに課題がある。言葉と図と式の相互関係の不定着が考えられる。</p>
算数 B 問題	<p>▲合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う見いだすことができることに課題がある。また、問題に書かれた条件以外で選んでおり、問題の読みが不十分な可能性がある。</p> <p>▲示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することや条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述することができることについて課題がある。</p>

# 小学校 理科

平均正答率は 54.5%で、全国・大阪府の平均を下回っている。A 区分（物質・エネルギー）では全国との開きがみられるが、B 区分（生命）では全国との差はなかった。

## 1. 全国学力調査結果【理科】と 正答数分布

理科	全国学力調査		理科	全国学力調査	
	H27	小学校		H30	小学校
泉南市	54.6		泉南市	54.5	
対府比	0.952		対府比	0.956	
対全国比	0.898		対全国比	0.904	
大阪府	57.3		大阪府	57.0	
全国	60.8		全国	60.3	



- 大阪府や全国と比べ、中下位層が多く上位層が少なくなっている。

## 2. 分類・区分集計結果

分類	区分	問題(全16問)					
		設問数	平均正答率(%)			対府比	
			本市	全国	大阪府		
枠組み	主として「知識」に関する問題	3	73.0	78.0	75.0	0.973	
	主として「活用」に関する問題	13	50.0	56.2	53.0	0.943	
学習指導要領の区分等	A区分	物質	4	53.5	59.8	56.5	0.947
		エネルギー	4	46.9	53.1	50.1	0.936
	B区分	生命	4	70.3	73.6	70.3	1.000
		地球	6	41.0	49.5	46.6	0.880
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	1	80.9	82.1	79.8	1.014	
	科学的な思考・表現	12	47.6	54.1	51.1	0.932	
	観察・実験の技能	1	66.6	71.1	68.4	0.974	
	自然事象についての知識・理解	2	76.9	81.5	78.2	0.983	
問題形式	選択式	13	58.2	63.8	61.1	0.953	
	短答式	1	76.9	79.4	74.2	1.036	
	記述式	2	19.6	28.0	25.0	0.784	

- 「科学的な思考・表現」の観点で正答率が低く、問題形式では「記述式」で特に正答率が低かった。例えば実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することでは無回答も多く見られた。

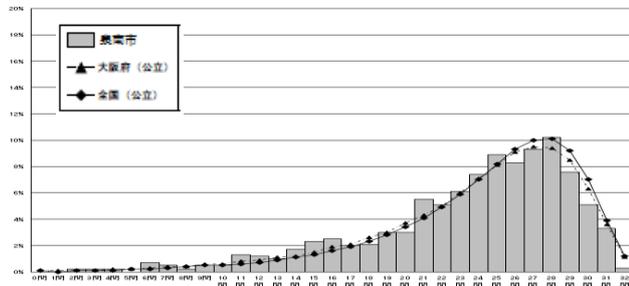
## 3. 成果と課題

理科問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に留意し、生物を愛護する態度を持って、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる問題については、大阪府平均を上回っていた。</li> <li>▲土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる問題について課題が見られた。</li> <li>▲実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することに課題が見られた。</li> </ul>
------	--

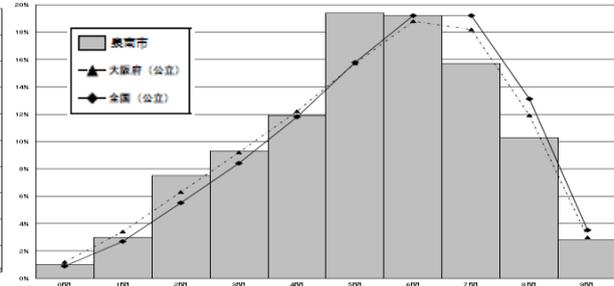
# 中学校 国語

平均正答率は、A問題で73.8%、B問題で57.8%となっており、大阪府や全国を下回っている。領域別では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がある。A問題は本市の対前年度よりも正答率が伸びているが、B問題は全国との差が広がった。

## 1. 正答数分布 <A問題>



## <B問題>



○A、B問題とも、昨年度と同様、大阪府や全国と比べ学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

## 2. 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A問題(全32問)				設問数	B問題(全9問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.4	75.2	72.3	0.960	3	71.6	76.6	74.0	0.968
	書くこと	4	70.7	73.9	72.2	0.979	2	30.4	31.3	30.0	1.013
	読むこと	4	73.6	76.7	76.1	0.967	6	51.4	53.5	52.0	0.988
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	74.8	76.5	75.2	0.995	1	49.2	49.2	47.4	1.038
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	49.1	50.3	48.9	-
	話す・聞く能力	3	69.4	75.2	72.3	0.960	3	71.6	76.6	74.0	0.968
	書く能力	4	70.7	73.9	72.2	0.979	2	30.4	31.3	30.0	1.013
	読む能力	4	73.6	76.7	76.1	0.967	6	51.4	53.5	52.0	0.988
	言語についての知識・理解・技能	21	74.8	76.5	75.2	0.995	1	49.2	49.2	47.4	1.038
問題形式	選択式	21	73.0	76.8	75.2	0.971	6	62.6	66.7	64.6	0.969
	短答式	11	74.8	74.7	73.8	1.014	0	-	-	-	-
	記述式	0	-	-	-	-	3	49.1	50.3	48.9	1.004

○A、B問題とも全体的に改善がみられる一方で、昨年度と同様に「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に課題がある。特に、A問題では、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。B問題では、目的に応じて文章を読み、内容を整理することに課題がみられる。

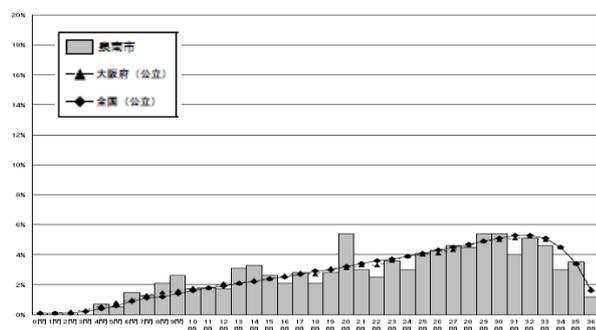
## 3. 成果と課題

国語 A 問題	○伝えたい事実や事柄が分かりやすく伝わるように書くこと、文脈に即して漢字を正しく書くことや歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるようになり、各校での日々の取り組みの成果が表れたと考えられる。 ▲話合いの話題や方向を捉えること、捉えたことを的確に話すことに課題がある。
国語 B 問題	○相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことができるようになってきた。 ▲全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことに課題がある。

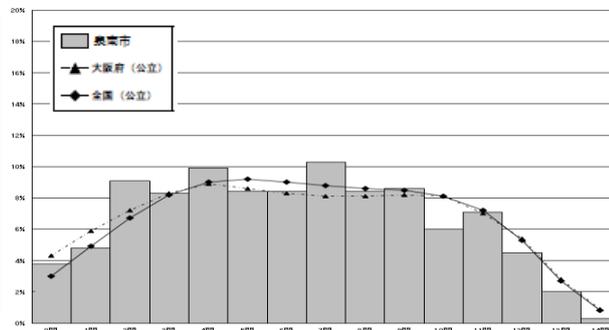
# 中学校 数学

平均正答率は、A 問題で 63.6%、B 問題 44.3%で、大阪府や全国を下回っているが、AB 問題ともに正答率が伸びており、特に「関数」「資料の活用」の領域では、大阪府や全国との差が大きく縮まった。

## 1. 正答数分布 <A 問題>



## <B 問題>



○ AB 問題とも、大阪府や全国と比べ学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。昨年度と比べると上位層も増えてきている。

## 2. 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A 問題(全36問)				設問数	B 問題(全14問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	12	67.9	71.1	70.1	0.969	4	49.9	51.4	51.0	0.978
	図形	12	66.8	69.1	67.8	0.985	3	43.4	46.7	46.0	0.943
	関数	8	54.1	55.5	55.7	0.971	3	50.7	52.8	50.9	0.996
	資料の活用	4	60.3	63.5	61.6	0.979	4	34.4	38.0	36.2	0.950
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	0	-	-	-	-	10	42.8	45.1	44.1	0.971
	数学的な技能	14	67.2	70.4	69.6	0.966	4	47.8	51.3	49.6	0.964
	数量や図形などについての知識・理解	22	61.3	63.3	62.4	0.982	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	18	59.4	61.5	60.6	0.980	2	58.3	61.5	59.6	0.978
	短答式	18	67.8	70.7	69.8	0.971	7	53.2	56.2	54.7	0.973
	記述式	0	-	-	-	-	5	26.1	27.9	27.5	0.949

○昨年度と比べて全体的に正答率が上がっているが、B 問題は「図形」「資料の活用」の領域で正答率が低かった。昨年度も同様に「図形」「資料の活用」での課題がみられた。例えば、証明を振り返り、証明したことがらを基にして、新たな性質を見いだすことに課題が見られた。

## 3. 成果と課題

数学 A 問題	○連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の 2 直線の交点であることを理解している。 ▲指数を含む正の数と負の数の計算することに課題が見られる。
数学 B 問題	▲与えられた情報を分類し不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができることに課題がある。 ▲与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。

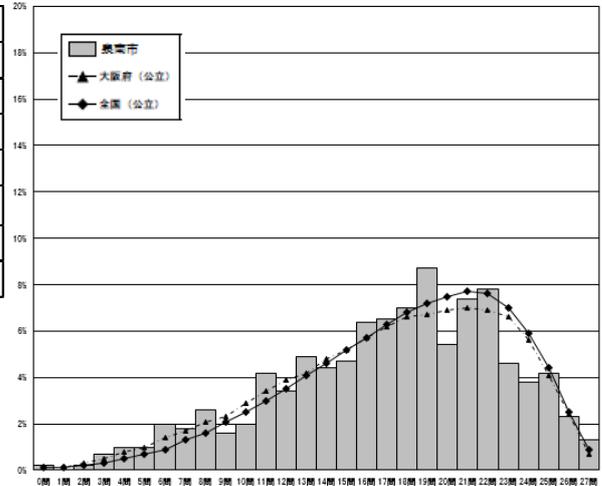
# 中学校 理科

平均正答率は、63.3%で大阪府や全国を下回っている。物理・化学分野の領域で全国より下回っているが大阪府を上回っている。生物・地学の領域の課題が見られる。

## 1. 全国学力調査結果【理科】と正答数分布

理科	全国学力調査
	H27
	中学校
泉南市	47.7
対府比	0.938
対全国比	0.900
大阪府	50.8
全国	53.0

理科	全国学力調査
	H30
	中学校
泉南市	63.3
対府比	0.988
対全国比	0.955
大阪府	64.1
全国	66.3



○ 全国・大阪府とも、概ね同じ傾向であるが、学力上位層が少なく、その分中下位層が多くなっている。

## 2. 分類・区分集計結果

分類	区分	問題(全27問)					
		設問数	平均正答率(%)			対府比	
			本市	全国	大阪府		
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	66.0	67.9	67.0	0.985	
	主として「活用」に関する問題	16	62.0	64.9	62.0	1.000	
学習指導要領の分野等	第1分野	物理的領域	7	72.4	74.4	72.4	1.000
		化学的領域	8	63.2	65.0	62.8	1.006
	第2分野	生物的領域	6	67.8	72.5	70.1	0.967
		地学的領域	7	54.9	57.8	55.9	0.982
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	1	73.0	74.0	71.2	1.025	
	科学的な思考・表現	16	61.9	64.9	62.2	0.995	
	観察・実験の技能	4	64.2	67.0	64.7	0.992	
	自然事象についての知識・理解	8	66.1	68.7	67.6	0.978	
問題形式	選択式	17	68.2	70.9	69.1	0.987	
	短答式	4	68.5	70.2	69.2	0.990	
	記述式	6	46.3	50.1	46.1	1.004	

○ 「自然事象についての知識・理解」の観点で正答率が低かった。例えば「電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識をみにつけているか」の問題で課題が見られた。

## 3. 成果と課題

理科問題	<p>○実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができることやオームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる問題では、学校での取り組みの成果が表れていた。</p> <p>▲地学的領域の「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できるか」の問題で全国・大阪府と比べ、正答率に大きく開き、無回答も多く見られた。</p>
------	--

生活習慣や意識に関する調査（児童生徒質問紙調査）の結果

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
自分には、よいところがある	80.2	81.3	84	69.5	72.7	78.8
将来の夢や目標を持っている	<u>84.4</u>	83	85.1	<u>73.2</u>	69.4	72.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	<u>96.8</u>	96.2	96.8	94	94.5	95.5
人の役に立つ人間になりたいと思う	<u>95.9</u>	94.6	95.2	92.8	93.2	94.9
朝食を毎日食べている	91.9	92.9	94.5	85.9	89	91.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	<u>74</u>	73.8	77	66.9	72.1	74.2
毎日、同じくらいの時刻に起きている	85.3	86.8	88.8	85.6	88.7	90.3
家で、自分で計画を立てて勉強する	59.7	60.3	67.6	<u>48.6</u>	47.9	52.1
家で、学校の宿題をする	96.4	97.4	97.1	87.4	88.9	91.6
家で、学校の授業の予習・復習をする	45.2	51.9	62.6	43	45.5	55.2
学校の授業時間以外に、1時間以上勉強する（月～金 塾・家庭教師含む）	56.8	57.8	66.2	58.7	67.8	70.6
学校の授業時間以外に、1時間以上読書する（月～金）	16.2	16.8	19.3	12.5	12.6	14.8
家の人と学校での出来事について話をする	78.6	79.1	80.5	69.9	72.7	76
地域の行事に参加している	40.4	51.4	62.7	<u>34.5</u>	34	45.6
算数(数学)の授業の内容はよく分かる	<u>85.9</u>	84	83.4	<u>72.1</u>	71.8	71
理科の授業の内容はよく分かる	<u>87.2</u>	85.3	89.4	<u>75.7</u>	68	70
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う	52.5	57.1	61	47.5	50.9	53.8
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	71.9	74.6	77.7	<u>69.3</u>	69.2	76.3
「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)						

# 今年度実施している学力向上のための取組み

## 少人数指導・習熟度別指導の実施

各校に加配されている教員を中心に、学校の実態に合わせて少人数指導・習熟度別指導を実施。一斉授業では比較的難しい個に応じたきめ細かな指導を進めている。教科は、国語、算数・数学、英語で実施。単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、チームティーチング等の体制をとっている。

## 小学校における専科指導教員の配置

中学校教員が小学校で教科指導を行うことで、小中連携を一層推進し、子どもたちの確かな学力を育む一助となっている。H30年度は、一丘中学校区において外国語活動を実施し、新学習指導要領実施に向け小学校教員の外国語活動の授業力向上をめざしている。これまでに、H24～26年度は信達中学校区、H27、28年度は一丘小・西信達中学校区において外国語活動を実施。H29年度は西信達中学校区で理科教員を配置した。

## 確かな学びを育む学校づくり推進事業の実施

大阪府教育庁の確かな学びを育む学校づくり推進事業を活用し、加配教員が中心となって、学校活性化に向けて組織的・計画的に取り組み、授業づくりや学習規律の向上、自学自習力の育成や保護者等との連携などに進めている。H30年度は泉南中学校、一丘小学校、鳴滝小学校で実施。泉南市全体の学力向上をめざして、実施校の取組みを泉南市全体で共有している。これまでに、H25～27年度は、スクール・エンパワーメント推進事業として、一丘中学校で実施し、H28年度は泉南中学校で実施している。H29年度は、アクティブ・スクール推進事業として、泉南中学校、樽井小学校と一丘小学校でも実施している。

## 退職校長、指導主事による若手教員の育成

退職校長や市教委指導主事が各学校を訪問し、経験年数の少ない若手教員の育成にあたっている。授業づくりだけでなく、教師としての心構え、児童生徒や保護者とのかかわり方、学級経営のポイント等についてアドバイスを行っている。

## 学力向上スタンダードと学校活性化計画の活用

泉南市の学力向上スタンダードをベースに、各校の学力の課題に沿った形で14校の学力向上スタンダードを確立。「校内組織」「授業づくり」「学習規律」「家庭学習」「保護者・地域、校種間連携」の各分野において取組み内容・目標について全教職員をあげて方向性を確認。授業改善に取り組んでいる。

## 放課後等での補充学習の実施

各学校で放課後等、授業以外の時間に基礎・基本の学力をつけるための補充学習を実施。「泉南スタディ事業」として、学習支援員を活用し補充学習の充実を図っている。

# 学力向上に向けた重点課題

## ＜教育委員会の取組み＞

### ○教員一人ひとりの授業力向上

経験年数の少ない教員が増える中、更なる授業研究・授業力向上が必要である。教員をサポートできる研修会の実施，授業研究における支援や助言，組織的・計画的な校内研修のサポート等，大阪府教育庁と連携しながら教員一人ひとりの授業力向上をめざす。

### ○小中一貫教育の推進

学力向上については，担当者を集め，実践報告および中学校区等での実践交流を行い，学力調査から見える課題と成果の共有を進める。また6年生児童（新中学1年生）においては，春休みの宿題を実施し，4月からの新たな学習に備え，復習・点検を行う。

### ○読書活動の推進

子どものニーズに応じた学校図書館の充実に努めるとともに，学校・家庭における読書の習慣化に向けた取組みを進める。

## ＜各学校の取組み＞

### ○各校に応じた学力向上スタンダードの確立と学校活性化計画の作成

各校の課題に沿った形で〇〇小，〇〇中学校学力向上スタンダードを確立し，全職員がベクトルを揃え，課題解決のために取り組んでいる。また，それらが形骸化しないように学校活性化計画を作成し，学力向上スタンダードの確実な履行に向けて管理職及び校内の学力向上担当者が中心となって進捗管理及び調整を行っている。

### ○「めあて・課題」を明確にした授業改善の徹底

「めあて・課題」を目に見える形で示し，授業の終わりには，それが達成できたかどうかを振り返る時間を確保する。何を学ぶか，そして何ができるようになったのかを明確にし，一人ひとりの学びを確かなものにする。

### ○基礎基本の学力をつけるために

一人ひとりのつまずきを把握し，朝学習や放課後学習等，授業以外の時間を有効に活用し，基礎・基本の学力をつけるための取組みを更に充実する。

### ○家庭学習の推進

自ら学ぶ習慣をつけるために，教育委員会と連携して家庭学習を推進する。課題の与え方，保護者への働きかけなどを工夫する。